



特定非営利活動法人

平成 17 年夏号 NO.28



<http://nepai-mika.jp>

mika@ssr.co.jp

ネパール・ミカの会

平成 17 年 10 月 31 日発行 194-0035 東京都町田市忠生 2-5-36 tel042-791-0602



“ナマステ であい、よろこび”

N.P.O 法人ネパール・ミカの会

理事長 齋藤 謹也

9月に中間調査に行っていました大谷事務局長、青沼理事のお二人。とにかく治安に不安を残したままの旅立ちでしたが、実に詳細にわたって、ルンビニ、タンセン、カトマンドウの三都市の支援校を訪ねて報告をいただきました。ネパール中間調査を決断し、実行されたお二人にあらためて会を代表して御礼申し上げます。報告書を読んでいただいて、大変な努力をされての旅であったことを、会員各位も実感していただけるものと存じます。

その報告の中に“ネパールの支援先では、子どもや青年をはじめ、教育関係者が首を長くして私達を待っていてくれる”との事で、ネパールに出会い、よろこびを得られることに深く感謝すると共に、今度も頑張ろうと決意を深くする次第です。

さて、11月11日から21日まで、第9次教育支援の旅が実行できます。中間調査の実踏を受けての旅、一行17名の予定ですが、またあらたな出会いがあり、この旅ならではのよろこびが付加されることと期待しています。今回行けない方も報告を楽しみにしていただけたらと思います。又、次回は10周年の記念の旅(第10次)、今から計画をしておいて下さい。

前回国報で、会費納入を呼びかけたところ、大変ご協力いただき、納入率がアップしています。さすがミカの会々員ですね。ありがとうございます。又、引き続きご協力をお願いします。秋はバザーの季節、毎週のように雨にも負けず、風にも負けず、暑さ寒さにも負けないで頑張ってください。大変な努力を積み重ねながらの、ネパール教育支援です。できれば会員の皆様の直接のバザーお手伝いや、あるいはバザーでの買物を、物心両面のご支援をお願いできればと願っています。

先日、チャリティー・ボウリング大会で、あるご婦人がさつと5万円を募金箱に入れて下さり、びっくりしましたが、例え少額でも皆様の気持ちを形に変えていただき、具体的に表していただければと思います。又、あらためて会費以外にご寄付をいただいている方々に対し、御礼を申し上げたいと存じます。尚、こんなものがネパールから持って来ればいいんだがなあ、と織物、木工品、お土産などの具体的な要望があれば是非お話しください。ミカの会ならではの注文品、独自な物があればと考えているところです。

ここで定款の改正を行い、理事10名体制から12名体制に増員し、現地責任者ヌルブ・ラマ氏と齋藤孝氏に入りました。年度途中ではありますが、さらに内容充実に向けて努めてまいります。(法務局に届出)

そして、月1回(原則第3土曜日)に例会を、こもれば堂(築田寺内)にて行っています。「総会」以外に「例会」として月一度会員全体が参加でき、発言の機会のある形のもの、ボランティア団体としては、めずらしいもののような。是非、気楽においで下さい。

とにかく、「健康第一」。年とともに実感します。ゆっくり、ゆっくり、日々を健やかに過ごしたいものです。それに“生きがい”としてのミカの会。“私の生き方”としてのミカの会となればいいなあとと思っています。お互い声をかけあい、張りをもって暮らしていきましょう。



第八回チャリティーボウリング大会で挨拶する齋藤理事長

第9次ネパール教育支援の旅 11月11日出発

2005年度ネパール教育支援の旅が11月11日～21日の間実施されます。実施に先立ち支援の旅説明会が開催されました。齋藤理事長の挨拶に続き、旅の説明を大谷事務局長より行いました。以前に比べ治安の悪化や事故の可能性を心配し、危機管理に重点を置きました。17名の大所帯なのでなによりチームワークが必要とされます。3班に分けられたチームリーダーの役割は重要です。当会の支援の旅の目的を果たすべく事故のない旅をお祈りします。



【教育支援の旅の主な日程】

- 11日 タイ航空にて出発
- 12日 カトマンドウ着、バイラワ経由ルンビニ入り
- 13日 シリ・アマリ小学イ院、シリ・マズワニ高校贈呈式
次期支援校視察、既支援校視察
- 15日 タンセン地区にて合同図書贈呈式
- 17日 カトマンドウ日本語学校、パドウマ・カニヤ女子校
- 21日 バンコク経由午前帰国

「太鼓と焼きそば」

副理事長 今村 旭

去り行く夏の一夕、8月20日(土)。
築田寺にて今年のチャリティーコンサートとして、「鼓だぬき会」の演奏が行われた。準備段階で、もし雨天の場合、本堂でも可能な、と期待していたが、どうして、25名のグループによる大演奏とのこと、室内では駄目との結論となった。

簡単に考えていたが、こんなに大変な事とは！これは手強いぞ。何故って、この企画は太鼓の演奏を夕方からしてもらい、チャリティーの名のもとにドンドコと腹を空かしてもらい耳から刺激した食欲を、焼きそばやホットドック、ポップコーン、パエリア、紫蘇ジュース、その他諸々の食を販売して入場料の収入と食バザーによる利益で財務の助けとしたいとの願いのかかる事だから。当日の仕入れを任された張本人として残飯の山だけは見たくない！雨だったらどうしよう！何日も前から近所のスーパーSに立ち寄り、いつもの原価調べから始めた。

ホットドックは前にも経験済みなもので、前と同じパンとソーセージがまだ売られているかどうか。あった、有った、OK！味のポイントとなるマスタードとケチャップ、刻みキャベツがあれば、あとは、調理するのみ。ソーセージは12本入り1パック、パンは10個入り1パック。来場者の販売分と演奏者の夕食提供を考えて、仕入れの量を決める。原価を計算し、必要量を予測して仕入れを決定するが、多めに考える日と、消極的に少なめに考える日とがあり、悩んで毎日のようにパン売り場、ソーセージ売り場、焼きそば売り場、肉売り場、もやし、キャベツetc)。とにかく頻りに売り場を見てまわる。多分、防犯カメラに怪しげな老人が映っていたであろう。

そして、ある日、とうとう、売り場整理のオバサンに声を掛けた。これこれ、しかしか、素人の私が、130人分くらいの焼きそばをなるべく儲かるように作りたいんだけど、どうしよう？「ふーん、やっぱり、こっちの、ウチのブランド(スーパーS)のを使ったらどうですか？」ちょっと、量は少ないけれど、だいぶ、値段が安からぬ、との助言。よく、袋を見ると、一食分15g少ない。大手の有名品は一食150g。このSのほうは135g。よし、決めた。スーパーSの安いほうにしよう。このあたり、ロッキードとダグラスのあの事件の気分だが、何のリベートも来ないよなジイサン。結果としてスーパーSを選んで正解であった。

築田寺では自然幼稚園の佐藤さんが、親切にも、園所有の調理用鉄板や強力ガスコンロを「これを使ったらいいよ。」と組み立ててくださり、大助かりであった。これが、また、使い勝手がすこぶるよろしく、まるで、縁日のテキ屋のような気分です。130人分をジュージューと一気に焼き上げてしまった！

最初の不安もどこへやら、ドンドコとあつという間に終わってしまった。



当日は教育実習の一環として、大野北中学校の女生徒3名と引率の教師Sさんなどが加わり、調理のほうは、いつもの、ミカの会の有能な女性陣と相まって、気分の良い調理を続けて「交代して焼きましょうか？」とS教師の控えめな、申し出に、絶好調の調理人として、もう焼きゴテが手放せず、「イヤ、まだ大丈夫。」と、とうとう、130人分の焼きそばを一人でやり遂げてしまった。

気分爽快。我人生初の大量焼きそば体験、バンザーイ！の心境だった。太鼓の演目は八丈本ばやし、黒潮はやし、秩父屋台ばやし、など、佳境に入る。快調なる調理とソースの匂い、ジュージューの音、これもまた、一つのハーモニーであった。

終わってみれば、皆様に楽しんでいただき、お腹の不具合の悪い人も出ず、演奏の若者達も「今日は豪華な夕食だった。」と喜んでもらえた。礼儀正しい一人の少年から「ごちそうさま。」と言われ、苦労も吹き飛んでしまった。心配した残飯の山は見ることなく、全部、完食。ありがとうございます！

パエリアや紫蘇ジュースの提供をいただいた、いつものYさんやFさん、テント設営や蚊取り線香、かがり火など、大活躍の頼もしい男性陣、また、本公演の実現にお力をいただいた、新入会員のIさんご夫妻など、ミカの会のチームワークはまことに見事なものでした。今後は、焼きそばを売りまくろう！

サムンドラのときも楽しい会であったが、このお寺の庭園は素晴らしいものがある。今回も何かとご協力いただいた築田寺さんにお礼を申し上げたいと思います。また、楽しい会を企画しましょう。

感謝！！！！感謝！！！！

第10回町田大道芸 バザー初参加



10月8日、9日
東急109脇に出店
させていただきました。
参加を勧め
ていただき、設
営など配慮して
いただきました
商店会役員
の皆様に感謝
申し上げます。
機会があれば更
に工夫をして参
加したいと思います。

不順な天気にも悩ませながらも最後までがんばりました！会場付近では様々な大道芸やイベントが繰り広げられ沢山の市民の方が楽しんでいました。商店会主催のイベントだけに当ミカの会の販売方法などにも沢山のアドバイスを頂きました。バザーの販売もお客様への感謝と一言では同じですね。



大野北中学校出張授業の報告

和田 泰子

6月から9月にかけて、相模原市大野北中学校からの依頼で、総合教育の一環である国際理解教育の授業を大谷さん、青沼さん、私の3人が担当。このコースを選んだ16名の生徒、担当の齋藤先生（美術）と共に、対面式を入れて5回の授業に取り組んだ。

図書室やインターネットで得られる知識だけでなく、生きたネパールを5感を通して理解を深めた上で、生徒自身が自分たちに何が出来るかを考えるヒントを提供できたら、またネパールを通して他の国にも関心が広がればという思いがあった。



初日、緊張しながら先生、生徒に会った。広い校庭、大きな校舎、ネパールの学校とは大違い。廊下で出会うどの生徒も、しっかり明るく挨拶するのに感心した。この日、グループごとにネパールについて調べてくる宿題を出した。

2回目、調べてきたことの発表会。国全般、自然、宗教（それにちなむお祭り）、食べ物、スポーツ等について良く調べてきて、私たちも一緒に勉強させてもらった。その後、私が簡単なネパールの挨拶、文字の話をしたが、文字表を使ってすぐに自分の氏名をネパール語で書いた生徒がいて、びっくりした。

3回目、見てネパールを知ると共に、私たちの活動も理解してもらえるように、青沼さんが中学生向けに纏めたミカの会のプレゼンテーション（一般向けは今年、加藤副理事長を中心に会員で作成）を観てもらった。青沼さんの説明を聞きながら、色々質問、感想が出ていたので、ネパールのことが前より具体的に分かったのではと思った。また以前よりミカの会では、バザーで販売するネパール民芸品の開発、ルンビニでの自立支援のための製品開発の必要性を考えていたので、そのデザイン（日本で需要があるような）を考えて作図してくるという宿題を出した。



夏休み中、ミカの会主催でチャリティコンサート（鼓だぬき会による和太鼓）が行われたが、ボランティアの実地体験として、引率の齋藤先生と共に3人の生徒さんが参加して、大働きしてくれた。4回目は夏休み明け、ゴビンダさんという強力な助っ人の指導のもと、ネパールの家庭料理（ダルパートタルカリ）の調理実習をした。班ごとに、チキンカレー、ジャガイモのアチャールに挑戦。ダルスープ（豆のスープ）とご飯、チャ（ネパールのミルクティ）はまとめて調理した。出来立てを皿に盛り、箸やスプーンを使わず手で食べるという経験をした。香り（香辛料をかなり使う）、色、感触、味を鼻、目、手、口で味わいながら食べた。品の良い優しい味、唐辛子ばっちりの超極カラ、固かったり、ゆるかったり、班ごとに様々な味ができていた。



食後にゴビンダさんのお話と民族衣装の着付けをした。男子のドゥラ・スルワールも女子のサリーもとっても良く似合っていた。

最後の授業で、これまで学んだこと経験したことをもとに一層理解を深めるため、大谷さんが丁寧な説明をしながらミカの会の一般向けプレゼンを観てもらった。

これらの授業がどれくらい国際理解に役立ったか、今は分からないが、ネパールを通して、自分達と全く異なる暮らし、伝統、文化等を持った地球上の人々に思いを馳せ、これからの長い人生の中で、ちらっとでも国際ボランティアに関心を持ってくれたらうれしい。



激辛カレーのできあがり〜！

みんな真面目に取り組んでくれて、結構しっかり聴いてくれて、気持ち良い生徒さんたちだった。

私たちにとっても充実した良い経験だった。（生徒たちの感想文とデザインは、教育支援の旅に出発するまでに先生が届けて下さることにしています。）

青沼、大谷、和田さん。そしてゴビンダさんご苦労様でした。

ザ・フェスタ栄通り
平成十七年九月四日
快晴に恵まれ、人出も多く、パレードが到着する頃にはピークを向かえ、メイン会場内は人、人、人。
どこの出店者も予想を上回る売り上げに時間前に売り切れ続出。お陰でミカの会も美りのある一日となりました。



平成17年度中間調査報告書

理事 事務局長 大谷 安宏
理事 青沼 義信

平成17年度中間調査を下記により実施したので報告します。

今年度の中間調査は、カトマンドウ着後現地責任者ヌルブ・ラマ氏との協議により、当初の訪問日程を報告日程に変更し実施した。

昨年度の中間調査では訪問できなかったタンセン、3月の支援の旅の中止により、特にタンセンは1年半ぶりの訪問で、学校関係者や住民には「やっと来てくれた」という喜びが感じられた。

しかし、訪問先の増加や調査事項の充実により日程的に余裕が無く、残念ながら訪問先や調査事項の省略をせざるを得ず、今後の課題として日程などの検討が必要と思料される。

[中間調査実施日程]

9/18 (日) 成田～バンコク

- ・成田空港～バンコク空港
- ・バンコクホテル： アジア エアポート ホテル 宿泊

9/19 (月) バンコク～カトマンドウ

- ・ほぼ定刻カトマンドウ(トリブヴァン空港)に到着
ラマ氏の出迎えを受ける。
(バンコク出国時、空港にて空港税500バーツー現地通貨のみ必要)
- ・17時 在ネパール日本大使館訪問 富田一等書記官と面談

9/20 (火) カトマンドウ

- ・カトマンドウ日本語学院訪問 学院内視察面談
- ・パドマ・カニヤ・ビデヤシマ女子校訪問、校内視察、先生・奨学生と交流。
- ・トリブヴァン大学本校図書館視察
- ・ジャイカ カトマンドウ事務所訪問 田中コーディネーターと面談
- ・バザー用民芸品など調達 ジャンモさん同行

9/21 (水) カトマンドウ～バイラワ～タンセン

- ・スリナガル サイエンス校訪問
- ・モホン女子校訪問するも放課後のため入校せず
- ・夕刻、平和を願うローソク祭りにてJVC校長に会い立ち寄りを要請される

9/22 (木) タンセン～ルンビニ

- ・トリブヴァン大学 理系校訪問、図書室など視察
- ・JVC校(10+2)訪問
- ・ホリディエディケーションプログラムの施設訪問
- ・トリブヴァン大学 文系校訪問
- ・セン小学校訪問するも新校長不在のため校舎視察
- ・タンセンレストランにて支援学校先生と昼食会で交流



9/23 (金) ルンビニ

- ・グルワニマイ小学校視察
- ・シリ・ハジヤナ・エトラハ校視察
- ・シリ・スンディ小学校視察
- ・シリ・ジャナヒート小学校視察(次期教室建設候補校)
- ・シリ・マズワニ高等学校建設現場視察(塗装・仕上げ作業を残すのみ)
(金曜日授業は午前中のため以下訪問校での生徒との交流は出来なかった)
- ・シリ・マズワニ小・中学校視察
- ・シリ・アマリ小学校建設現場視察(教室使用中・塗装作業を残すのみ)
- ・シリ・ヤマデビー小学校視察(次期教室建設候補校)
- ・シリ・シリ・ラム小学校視察
- ・シリ・ルンビニ小学校外観のみ、シリ・アディアリ小学校訪問できず。



9/24 (土) ルンビニ～バイラワ～カトマンドウ

- ・シリ・グルワニマイ小学校用地視察
- ・カトマンドウ着後ホテルでラマ氏と最終打合せ
- ・バザー用民芸品など調達時サムンドラのメンバーと逢う

9/25 (日) カトマンドウ～バンコク～

- ・朝食後ラマ氏ジャンモさんとトリブヴァン空港へ
空港で日本語学院の生徒スリザナ シュレスタさんに通関から搭乗口までの世話を頂いた(トリブヴァン空港での空港税はRs 1,695に値上げされた)
- ・バンコク空港に定時着
待ち時間5時間余の後定刻より30分遅れで離陸

9/26 (月) ～成田

- ・タイ航空、定刻より約30分遅れ8時5分成田帰着
町田行き9時5分発バスに乗車で帰宅

久しぶりの中国

中野 千恵子

10月4日朝4時30分に家を出て、相模原市役所を出発し、成田から、杭州には初めて降りました。いつも、中国に行くときはいつも、上海に降りていたのですが、飛行機が取れなかったのです。なにしろ、相模原市から、今回、200人余りのひとが無錫市に行くのですから仕方がないと思いましたが。でもそれで正解でした。航空運賃は安いし、機内は空いているので、一人で、二人席は使えたのですから。

予定通りに杭州に降り、バスで無錫まで、高速道路利用です。バスの窓から見た、杭州の家々は3階家の屋根の上に雷よけの羅針盤をつけていて、まるでお城のようです。中国で、初めて見る光景でした。無錫のシュラトンホテルには、4時頃着き、休憩後、歓迎夕食会。その後はのんびり。

翌日は18時から、レセプションがあるので、昼間はまだ、無錫で行ったことがない霊山大仏見学です。新しい無錫太湖観光リゾート地に出来た88mの青銅仏像です。中国では秋のゴールデンウィークなので、人出がいっぱい。10時には入り口付近にある像が噴水と共に一番上の蓮の蕾がひらき、中から、小さな子供の像が出てくるのです。凄い演出。さすが、中国ですね。

夜は皆、おしゃれをしてメインイベントのレセプション出席。

午後には、太湖石の霊園見学、シルク工場見学。

相模原市より、助役、議長、市会議員、商工会議所、青年会議所、絵、華道、その他いろいろの団体が出席です。

私たち交流協会も前の3つの円卓に参加です。それぞれ中国の方が3人ずつ入り、楽しいひと時を過ごしました。



翌日は記念式典に参列。長い挨拶、友好の調印式も終わり、少年宮の可愛い子供たちの踊り、胡弓、琴の音楽には見とれてしまいました。そして、すぐ、バスにのり、相模原文庫に移動です。相模原市の有名な彫刻家が作られた、ブロンズ像の贈呈式に参加。忙しかった公式行事はこれで、終了。昼食後は私達短期グループ7人と長期で、青島、大連に行くグループと別々の行動です。

別れてから、すぐ、何かの手違いで無錫に3泊のはずが4泊になっているのが、判明しました。「エー」びっくりです。

杭州に2泊が1泊になってしまうのです。杭州には行きたいところがあったのにガックリ。まあ、旅には、そうゆう事もあるかな。頭を切り替え、プラス思考で、私がまだ行った事がない、寒山寺、留園、水郷の町同里の見学にいただきました。一応、スケジュールも決まったので、その日は、少年宮見学です。

少年宮とは、日本だと塾みたいでしょうね。学校が終わると、少年宮にきておけいこです。見学に行ったときはモダンバレエ、中国琴、バイオリン、絵、歌、習字等が行われていました。本格的な教室と趣味の教室はわかれているようです。

付き添いの親は、廊下や教室の隅で、待っているのは一部でほとんどの親は子供のそばにいます。本当に熱心。わがままな子供にならなければ良いけどね。ちょっと心配です。

7日はマイクロバスに乗り、蘇州に向け出発。2時間位で、寒山寺に着きました。静かな所ではなく、街中でした。運河がある裏のほうから、入館。12月の除夜の鐘で有名な鐘樓は3回たたくと10年若くなると言われていて、いつも混んでいるらしいのですが、ゴールデンウィークの最終日なので、ガラガラ。

私達も十元ずつだして、ポーン、ポーン。次は世界遺産に指定されている留園見学。プラタナスの並木が綺麗な門より入館。大きな太湖石と綺麗な池、珍しい木々の庭園散策です。



また、バスに1時間乗り、同里に到着。普通の車は入れないので、駐車場より、電気自動車に乗り込み、同里の街中まで乗りました。庭園を見学後、小船に乗り待望の水郷散策。緑の綺麗なプラタナスや柳の木々の下を手漕ぎでゆっくり進むので、気持ちが良く、癒されます。家々は古い町並みで、旅館や雑貨屋があり、欧米人が散歩したりしています。一周40分でしたが、今回の旅で一番気持ちの良い気分になりました。中国では、観光地図には載っていない素晴らしい場所がまだまだあるそうです。次もこの様な所に行ってみたいと思います。



第8回ネパール教育支援チャリティボウリング大会

2005年10月19日(水)7時30分～ 町田ボウリングセンター

総勢117名参加の盛大な大会になりました。ミカの会からも選手そしてバザーと多くの会員の皆さんが協力しました。ボウリング愛好会の方々より総額¥258,742が当会に寄付されました。愛好会と言っても組織があるわけでもなく、Nepal! ネパール! ねばーる! の一言で協力参加して頂いています。友人を誘って頂いたり、賞品を提供してくれたり、募金をして頂いております。8年もの長い期間本当にありがとうございます。貴重な寄付金を有効に使用する責任を痛感いたします。



ミカの会としては競技に参加、お茶の接待、民芸品の販売、又写真の展示などネパールを知っていただく努力を続けています。幸いボウリング愛好会の幹事に我がミカの会の加藤副理事長、小野田夫妻会員がおりますので、更なる継続をお願い申し上げます。ボウリングは老若男女、天候に左右されず気軽に楽しめます。是非ミカの会の親睦大会を開催しましょう!!!

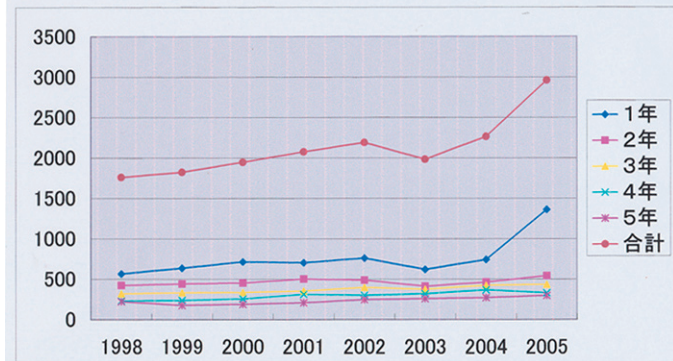
ルンビニ地区の小学校への支援8年間の結果報告

ユネスコの2002年調査によれば、成人男女別識字率は男子59.6%・女子24.0%・男女合計では41.8%とアジア太平洋地域ではワースト2にランク（女子はワースト1にランク）、また、総務省統計局「世界の統計2003年」によれば、世界各国の15歳以上人口に対する識字率は、ネパールは44.1%と世界のワースト3にランクされています。

このような状況が続くならば、ネパールは世界の落ちこぼれになってしまうのではないかと危惧されます。

特に貧困地区の低識字は就学率の低さによるもので、2年前ルンビニ地区について、マズワニ村村長とサクロウン・パカリ村（シリ・シリ・ラム小学校）村長に就学率を聞いたところ、両村長とも20%ぐらいと認識しているようで、やりきれなさが私たちの気持ちを暗くしてしまいました。

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	増加数	伸び率
1年	565	636	714	703	760	620	741	1360	795	240.70%
2年	423	441	453	500	488	411	462	542	119	128.10%
3年	319	331	335	352	396	375	423	433	114	135.70%
4年	230	238	256	312	301	318	367	330	100	143.50%
5年	223	176	189	207	246	257	271	296	73	132.70%
合計	1760	1822	1947	2074	2191	1981	2264	2961	1201	168.20%



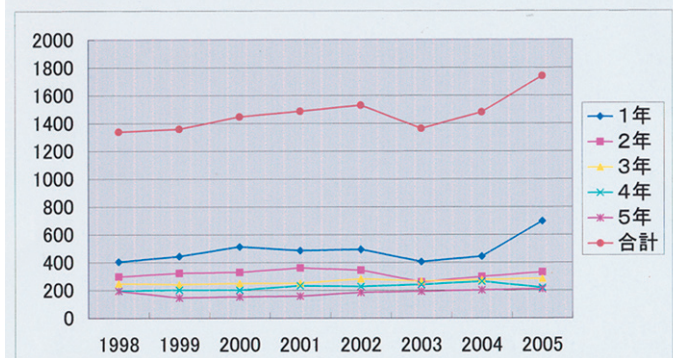
ルンビニ地区支援7小学校 生徒数推移 男女合計

このようなネパールの現実を視野にしたミカの会の支援は、現実を見、確かめながら行っており、それに手ごたえを感じておりましたので、その成果を探る方法として、2002年に1998年から5年間の生徒数を調査し推移をグラフ化しました。その後毎年の中間調査時に生徒数を調査し推移を記録してきました。

ルンビニ地区支援7小学校（シリ・アディアリ小、シリ・グルワニマイ小、シリ・マズワニ小・シリ・シリ・ラム小・シリ・スندی小・シリ・ルンビニ小・ハジヤナ・エトラハ小）の8年間の生徒数の推移（別表）を見ますと、ミカの会の支援は、緩やかではありますが確実に就学者が増加しており、他に生徒増加要素があったとしても、会の目的の一つである女子就学者の大幅な増加は、ルンビニ地区の識字率の向上に大きく貢献していることは疑いのない事実として表われています。

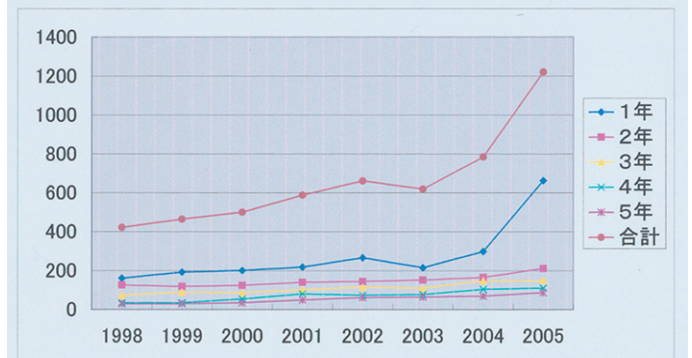
表およびグラフには1998年から2005年までの学年別の生徒数、及び1998年と2005年の比較を増加数・伸び率で記載しましたので、8年間の変化状況をご理解いただければと思います。

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	増加数	伸び率
1年	404	444	513	485	494	405	443	697	293	172.50%
2年	297	323	329	360	344	259	297	331	34	111.40%
3年	247	242	249	251	281	265	275	284	37	115.00%
4年	196	203	202	232	227	241	263	219	23	111.70%
5年	194	146	154	158	184	192	202	209	15	107.70%
合計	1338	1358	1447	1486	1530	1362	1480	1740	402	130.00%



ルンビニ地区支援7小学校 生徒数推移 男子

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	増加数	伸び率
1年	161	192	201	218	266	215	298	663	502	411.80%
2年	126	118	124	140	144	152	165	211	85	167.50%
3年	72	89	86	101	115	110	148	149	77	206.90%
4年	34	35	54	80	74	77	104	111	77	326.50%
5年	29	30	35	49	62	65	69	87	58	300.00%
合計	422	464	500	588	661	619	784	1221	799	289.30%



ルンビニ地区支援7小学校 生徒数推移 女子

表はありませんが、女子数（男女合計の女子の割合）が1998年に24%だったのが年毎に増加し2005年には41.2%と50%に届こうかの勢いで増加しています。

今年度の女子の増は、前年までの入学者の2倍以上の入学者があった事も大幅伸びの一因かと思いますが、男子も5割以上の入学者があり、学ぶ事の大切さが浸透してきた結果ではないかと推測されます。

支援の旅で急激な入学者増の原因を調査していただきたいと思っています。

尚、2003年は男女とも生徒数が減少していますが、その原因は2003年の自然災害による不作が原因と、ラマさんから聞いており、その反動で今年度の入学者増になったとも推測されます。

このような生徒数の増は非常に喜ぶべき事です、生徒の増は教室の不足を来すことにもつながりかねず、今後教室の追加建設要請が増えるのではないかと懸念されます

（資料作成 青沼 義信）

（注）就学児童の急激な伸びは注目すべき点ですが、ネパール全体又は、地域的現象なのか現在のところ判断できません。

ネパール政府の教育に対する啓蒙活動又は施策による結果とも想像できますが、今後こうした広範囲な情報を収集、検討を加える必要があります。従ってミカの会の学校建設、図書支援が直接原因となって就学児童の増加にどれだけ寄与しているかは断言できる状況とは言えません。すべてのミカの会の支援について、冷静にその効果を確認しながらより計画的に行う事が必要とされています。

「ビスタリ、ビスタリは・・・」

事務局長 大谷 安宏

久し振りの中間調査に行かして貰った。今村さんに同行の時から既に5年は経っているだろうか？ここ数ヶ月苦勞の多かったラマさんがどんな顔で出迎えて呉れるか気にしていたが、いつもと変わらぬにこやかな笑顔と握手は暖かく柔らかく安堵した。

創立以来の支援箇所は増え、係りをもった関係者も多岐にわたり、年々中間調査も多忙を極めるが、来年に迎える創立十周年の節目の年により有意義で効果的な支援対象を見極め、方向付けを見出すことが今回の調査の目的と責任の重さを感じていた。

ところが湯の出ない冷たいシャワー、慣れない冷房と悪名高きカトマンドウの排気ガスにネパール入り二日目から迂闊にも鼻水、発熱、頭痛を引き摺っての辛く慌しく駆け抜ける旅となった。中間調査に出掛ける間際に、久し振りに「夢の記」を読み返してみた。「ビスタリ・ビスタリ」と題してルンビ二の情景を投稿していた。

農家の庭先から女の子が二人はにかみながら近づいてくる。山羊と並んで赤ん坊を抱えた母親が来る。仕方なさそうに犬がのんびりついて来る。軒下で孫をあやしなながら豆を選ぶおばあちゃん。幼い子がヒヨコと遊ぶのを見守る少年。(中略)すべての生き物が当たり前のように一緒に生き、自然のテンポと同調した営みを見るに、彼等にはほのぼのとした幸せ感を感じる。

高村光太郎の詩「同棲同類」が頭をよぎる。(中略)何かビスタリ、ビスタリという言葉の中に、この国への支援のあり方にヒントがあるのではないだろうか。

ホテル・バイシャリの窓から望む見慣れた住居や生活の先には建設用のクレーンが建ち、女子校ではパソコン教育の必要性を訴える。タンセンでは逢う人皆から「一年半ぶりだ、心配していた」と声を掛けられ、一年半の空白に手紙による絆の大切さを痛感させられた。

塩屋の娘ラダはすっかり娘らしく、あどけなかった弟マドライは髭も生え遅く、サビタはパソコン教室に通っていると言う。スリナガルホテルの門前で得意げに絵を呉れた少年はローカルテレビのカメラマンとなり、何年も骨組みだけのホテルのタワーにはローカルラジオ局が開設され、ミカの会の二人のタンセン入りが報じられたとか？

地域による大きな格差を感じながらもネパールは急速に変化しつつあるかの様に思われる。

慌しく駆け抜けたせいなのか、「ビスタリ、ビスタリ」を感じる情景に触れることなく、時の流れの速さと、変わりつつあるものと同様に変わっていかないものを改めて感ずる旅だった。やはりネパールにはビスタリ、ビスタリが良く似合う。

創立十周年を迎えるにあたり、変化の状況の把握とその変化に対応した支援のあり方を見極める目をもって支援の旅に参加したい。ラマさんに始めて逢った時、帽子のツバにネパール語でビスタリ、ビスタリと書いて貰った。その帽子は今も大切に使っている。

俺は「ビスタリ、ビスタリのネパールが好きだ」



奥日光へスケッチ旅行

掛川 和子

少し紅葉の早い日光へ、小雨の中13名で出発。

ホテルは、湯の湖に全室面しており、大きくてなかなか風光明媚。窓からはどこを見てもスケッチに格好なロケーション。

これにはびっくりした。(なにしろ格安旅行と聞いており、雨風凌げればよい山荘程度に考えていたので)まづホテルに到着、一番ロビーにて横浜大倉山老人会御一行様、こちらにどうぞの声。えっ？？まさか？

秋畑幹事の説明で納得。シルバー割引を狙って、と言う事情で老人会として申し込んだそうです。(あわてて腰を曲げて歩くわけにもいかず、、、)

風呂は露天風呂もあり、大きくて快適。私は一日3～4回浸かり、リラックス出来た。

二日目 霧雨

小雨けふる湖は、なかなか情緒あり絵になる。室内でスケッチする人と湖畔で描く人、それぞれ。このあたりは、白樺ともみじが燃えて丁度見頃でした。外はなかなか絵の具が乾かず、にじみ過ぎ、慣れるまで苦勞した。

三日目 晴れ

描きたい景色ばかりに出会うが、あまりの美しさに興奮が先で、とても未熟な私にはそれが筆先まで伝わらず、歯がゆい。とりあえず、2枚完成。

夜はロビーにて発表会を行う。黒山の人ばかり、少し恥ずかしかったが、皆さんの素晴らしい作品を見て「きれい」「売ってくれるかね～？」等々の声。「高いですよー」



帰路、東照宮付近で1時間休憩有り、さっそく神橋を書き始めた。朱塗りの橋、紅葉、谷川。その優美な姿に圧倒される。描きたい一心で人通りの多いところでずーずーしくも夢中でスケッチをした。恥ずかしいなどと言っていられず、かえって集中力が高まる。家に帰ってから完成させるのが楽しみです。今回の私のハイライトはこの一枚となるでしょう。

よく飲み、おしゃべり、よく笑い、いい湯に浸かり、そしてスケッチを、充実した格安の老人会旅行でした。

今回の会報は予算の関係から白黒コピー版となります。ホームページ上のPDF会報はカラーでご覧になれますのでお楽しみください。カラーコピー機の導入を夢見しています。会員の方に随時お知らせメールを差し上げております。現在送られていない方は mika@ssr.co.jp までご連絡下さい。

「まだまだこれから」 近況報告

佐藤 富美子

今日はこの場を借りて私の近況報告をさせていただきます。この秋、私にとってとても嬉しい事がありました。それは何かと言うと、大学院に進学が決まったことです。思い返せば2002年・・・約半年間にわたるネパールに滞在を通して、途上国への援助の問題をもっと知りたいと思うようになりました。

それから3年、ずっとずっと進学することを考えていました。進学したい。でも無理じゃないか。そう思っているうちに月日は過ぎ、このままではいけないと

受験を決意してはみたものの、大学院なんてハードルが高すぎやしないかと急に自信がなくなり頭の隅から不安が消えることはありませんでした。

今、自分に出来ることを精一杯やればいい。どんなに遠回りしたとしても、それは決して遠回りではなく、その「回り道」経験を自分の力にし、自信を持って頑張ればそれでいい。

試験当日は頭の中が真っ白になり、一時間の口述試験ではとにかく「ミカの会」を連呼しました(笑)。その思いが通じたのでしょうか？合格の二文字をいただきました。

改めて、日頃から熱い声援を惜しみなく送ってくれていた会の方々に心から感謝いたします。

「ミカの会を研究」

ざっくり言うと、ミカの会が行ってきた様々な支援、援助活動はどんな効果を生み、ルンビニの村人にどんな影響を与えたのだろうか。それを社会調査により明らかにするというのが研究テーマです。

「生徒数のデータ」

会報22号に青沼さんが詳しく書いてくれています。

このデータ、じっくり見るととてもおもしろい。

生徒数の増加というのが一つの目に見える効果と言えるでしょう。

「ミカの会の支援がなぜ生徒数の増加に結びついたのか。」

生徒数の増加ということ以外に果たしどのような変化をもたらしているのか。

「ミカの会がルンビニ社会に与えたインパクト」

卒業までの2年数ヶ月はどっぷりとネパールと研究、ミカの会につかりたいと思います。

卒業した後は、世界各国で行われている援助を通して、少しでも人々が幸せをつかんで行くことができるための手伝いをして行きたいと思っています。

ネパールにいと、「日本はいいな」「日本に行きたい」と出会う人出会う人に言われる。

私はネパールが大好きなのに。

それは私にも当てはまる。私は日本が好きだろうか。日本を良くするために、家族を、友人を、隣人を幸せにするために何かしているだろうか。

ネパールを通じて、自分自身、自分の家族、自分の国のことを考えるようになった。

やっとスタートラインに立ったばかり。まだまだこれからがんばらなくっちゃ。

おまけ！！

今度通う学校は国立。それに合わせて小金井市に引っ越ししました。2階のベランダから手の届きそうなら間近に桜の並木があり、ベランダでお花見が出来ます。

近くには小金井公園もあり、緑が多くとてもいい環境です。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、小金井公園に江戸東京建物園という美術館(?)があります。



愛、地球博にてラマさんとツーショット

敷地は約7ha(!)、そこに文化的価値が高い歴史的建造物を、復元、保存、展示しています。建物の中に入れて、ボランティアの方が丁寧に説明してくれます。

建物の復元ももちろんですが、町並みも同時に再現しており、タイムスリップしたような感覚を覚えます。

宮崎駿さん監督「千と千尋」のモデルになったと言われる銭湯もありますヨ。町田からは少し遠いですが、一日遊べますのでぜひどうぞ。

パキスタン北部地震災害救援金を募集します

理事長 齋藤 謹也

10月8日パキスタン北部に発生した地震による犠牲者はインド側を含めて5万人超え、パキスタンでは負傷者も7万4000人に達し、壊滅的な打撃を受けた北部を中心に、破傷風などの感染症による死者も出ており、これから迎える厳しい冬により犠牲者は更に増える可能性が高いと報じられています。

この災害に既にご支援を済まされた方も多いかと思います。遅ればせながら当会も日本赤十字社を通じての支援をたく、救援金の募集の提案をします。

主旨ご理解の上、多くの会員の皆様にご協力をお願いします。

振込先

口座名義	特定非営利活動法人 ネパール・ミカの会
口座番号	00160-2-413918
募金単位	1口1000円1口以上
受付期間	11月25日(金)
通信欄記載	「パキスタン北部地震」と明記下さい

【編集後記】

会員の佐藤 富美子さんが見事一橋大学大学院に合格。本当におめでとうございます。ミカの会を研究し、ネパールの教育環境の向上に努力していただく決意をお聞きました。ささやかなミカの会の活動ですが、専門家の立場から分析していただくことがとても大事な事だと思います。これからの活躍を期待いたします。11月11日から第9次教育支援の旅が実施されます。治安状況により半年遅れの旅となりますが、改めて団体としての危機管理が検討されました。ボランティアだからと甘えは許されません。団体としての責任、自己責任と大人の判断が要求されます。不可抗力なトラブルと推測できる事故、事件。難しい判断を要求されながらの支援の旅です。私たちの住む世界は天災、テロと危険に満ちてまいりました。どう対処するか私たちひとりひとりが試される時代です。皆さん覚悟のほどはいかがですか？ S.K